

とめNNだより

令和6年9月発行

第37号

「とめNNだより」は、農業農村整備部(通称NN部)の広報広聴活動の一環として、登米管内の農業農村整備事業に関連する活動を広くお知らせする目的で、年4回発行を予定しております。掲載内容についてお問い合わせ等ありましたら、管理調整班までご連絡ください。

【東部地方振興事務所登米地域事務所農業農村整備部広報広聴委員会】

Lineup

内容	ページ
水利施設整備事業(基幹水利施設保全型)第4旧迫川地区が完了しました。	1
田んぼダムパネル展を開催しました!	2
令和6年度多面的機能支払に係る活動支援研修会が開催されました。	3
田んぼの生き物観察会が開催されました。	3
登米市立北方小学校農業農村体験学習記	4
農地整備事業「古宿地区」が開始されました!	5

水利施設整備事業(基幹水利施設保全型)「第4旧迫川地区」が完了しました

登米市迫町から南方町に位置する5箇所の機場(畑岡排水機場、三方島揚水機場、早稻田揚水機場、大袋排水機場、古川排水機場)は、合わせて1,405haの範囲の用水・排水施設です。昭和59年から平成10年にかけて造成され、施設全体の経年劣化による維持管理費が増大しており、今後各機場の主ポンプ、原動機、電気設備や制水ゲート等に重大な故障、損傷が発生した場合、ポンプ機能停止によって、かんがい用水、洪水時の排水に重大な影響と被害発生が懸念される状況となっていました。

そのため、平成29年度から水利施設整備事業の基幹水利施設保全型として順次補修工事を行い、令和6年6月に全ての工事が完了しました。



▲古川排水機場(電気設備更新)



▲早稻田揚水機場(ゲート補修)

田んぼダムパネル展を開催しました！

宮城県では、近年、頻発化・激甚化する水災害に備えるため、流域のあらゆる関係者が協働して被害を軽減させる「流域治水」を進めております。

その対策のひとつとして、水田の持つ雨水貯留機能を最大限に活用し、下流の市街地や河川等への雨水流出を抑制する「田んぼダム」の取組が注目されています。

田んぼダムの普及拡大に当たっては、流域全体の関係機関や農家等の理解を得ながら推進していくことが重要となります。

この田んぼダムを地域の方々に知っていただくため、7月22日（月）から9月27日（金）まで、登米市役所各総合支所と県登米合同庁舎を巡回して「田んぼダムパネル展」を実施しました。

不特定多数の人が集まる行政機関にパネル等を展示したことで、多くの方々の目に留まり、これまで田んぼダムを知らなかった方にも知っていただくことができました。



登米市役所東和総合支所での展示

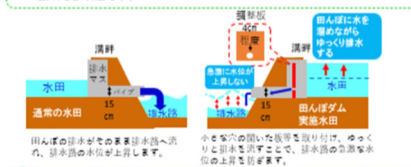
田んぼダムをもっと知りたい方、興味のある方、出前講座をどうぞ！

「田んぼダム」に取組んでみませんか

大切な地域を守るために、豪雨や台風などにより頻発している水害への備えとして、地域のあらゆる人たちが協働して治水対策に取り組んでいくことが重要となっている中、洪水や浸水被害のリスクを減らす『田んぼダム』が注目されています。

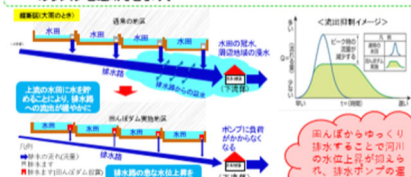
Q 「田んぼダム」って何だろう？

A 下の図のように田んぼの排水マスに小さい穴の空いた調整板を取り付けることにより、大雨の時にゆっくりと排水し、水路や河川の水位上昇を抑える取組です。



Q 田んぼダムにはどんな効果があるの？

A 上流の田んぼに降った雨をゆっくり排水することによって、排水路や河川の水位の上昇を穏やかにし、下流側の農地や宅地等の浸水被害等のリスクを軽減できます。



田んぼからゆっくり排水することで河川の水位上昇がゆるやかになり、田んぼダムの維持管理費用を軽減できます。

田んぼダムは、近年頻発化・激甚化している水災害への備えとして有効です！

地域の防災・減災を考えるひとつのきっかけとして、田んぼダムの取組を検討してみませんか？

出前講座

出前講座メニュー 田んぼダムのおはなし

近年、大雨による水害発生件数が増加している中、宮城県ながら取組むことができ、地域の防災・減災に貢献する「田んぼダム」の取組が注目されています。「田んぼダム」とは災害級の大雨の際に被害を軽減するため、一時的に田んぼに水を溜め、田んぼをダムの様にする取組であり、近年取組まれるようになりました。宮城県東部地方振興事務所登米地域事務所では、田んぼダムの役割や構造、仕組みや効果などを右下の模型を使ってわかりやすく説明します。みなさんもこれを機に田んぼダムとは何か、また防災・減災について一緒に学習しませんか？



- 出前講座とは？
- 様々な目的に即応し、地域の防災・減災に関するテーマについて、関係者の理解を深めていただくことを目的に、関係者や市民の集まり、学校授業などに合わせて実施する講座です。
- 申込みができるのは？
- 地域団体・企業・学校教育の場など、民間団体や市町村などの公的団体が主催する概ね20人以上の集まり・会合が対象となります。ただし、製粉試験、消費生活又は政治活動を目的としている場合や音楽、舞踊又は交際を目的とする場合は対象外となります。
- 主催側からの連絡事項
- 出前講座を希望する場合は、実施希望日の2週間前までに下記の申込書に記入願います。
- 都合上、都合に即応しない場合は送料のみ返付も可能です。
- その他お問い合わせにつきましては、下記に連絡願います。（平日の午前9:00～午後5:00）

宮城県東部 地方振興事務所 登米地域事務所
お問い合わせ先（農業農村整備部 管理課調整班）
電話 0220-22-6136（直通） ファックス 0220-22-6015
メールアドレス: tohmi@pref.miyagi.jp
HPアドレス: <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-smgins-en/>

令和6年度多面的機能支払に係る活動支援研修会が開催されました。

令和6年7月31日に登米祝祭劇場にて、宮城県多面的機能支払推進協議会主催の「令和6年度多面的機能支払に係る活動支援研修会」が開催され、登米管内116の多面的機能支払活動組織から239名が参加しました。

当日は、県農山漁村なりわい課や水土里ネットみやぎの担当者から、多面的機能支払制度の概要や令和6年度の制度改正内容、活動組織の事務処理や運営に関する留意点について説明がありました。また、同制度における共同活動の取組みでもある「機能診断・補修技術等の研修」として、水路の点検や機能診断、補修計画、補修方法等について東北農政局土地改良技術事務所担当者が説明した動画を視聴しました。

今後の交付金の適正な執行につながるなど、活動組織に対して有意義な研修会となりました。



▲研修会の様子



田んぼの生き物観察会が開催されました

南三陸米地産地消推進協議会の主催による田んぼの生き物観察会が、7月12日に登米市津山町にて開催されました。

当日は登米市立津山小学校2年生の児童9名が参加し、スタッフとして参加した農事組合法人「フォレストウインド津山」のメンバーが見守る中、津山町横山地内の大徳寺を流れる水路内にて生き物を探し、ドジョウ、ザリガニ、トウキョウダルマガエル、エビ等を採取することができました。

採取後、今回講師を務める「なまずの学校」代表により、農村に生息する生き物の見分け方や地域毎の生態系についての説明があり、児童達は環境保全の大切さを学ぶことが出来ました。その後、採取した生き物は水路に放流されました。

最後に、登米地域事務所農業農村整備部から、農業用ため池や農業用水路の危険性の説明を説明し、これから夏休みを迎える児童達への注意喚起を行いました。



生き物勉強会の様子



児童への注意喚起の様子

～登米市立北方小学校農業農村体験学習記～

21世紀土地改良区創造運動の一環として、登米市立北方小学校5年生（31名）を対象に迫川沿岸土地改良区が開催した学習会を取材しました。

【第1部 令和6年7月9日】

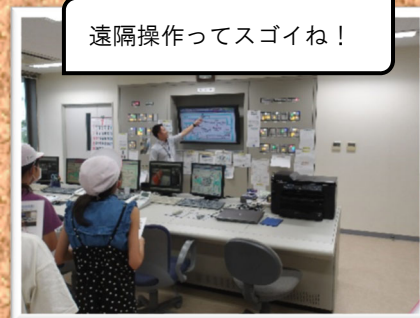
会場は、迫川沿岸土地改良区の会議室。星理事長の開会挨拶の後、土地改良区の仕事についてのDVDが上映されました。DVDは、アニメーションの子供たちがミッションをクリアしながら土地改良区の仕事を学んでいくストーリーでとてもわかりやすいものでした。

DVD上映後に少しだけ時間をもらい、登米NNから、水路やため池での水難事故防止の啓発を行いました。パンフレットを配布して、水路やため池が危険であることを説明し、水路やため池に近づいたり遊んだりしないことを約束してもらいました。

次に、中央管理室に移動して、土地改良区が管理している揚水機場の遠隔操作を見学しました。

中央管理室の大きなモニター画面で離れた機場等の様子を見ることができ、遠隔操作によって機械を動かすことができます。子供たちは、たくさんのコンピューターと大きな画面に驚き、遠隔操作に興味深々な様子でした。

遠隔操作ってスゴイね！



高石揚水機場を見学

最後は、高石揚水機場にバスで移動し、機場を見学しました。子供たちは、ポンプの大きさと稼働音の大きさに驚いていました。この日は雨が降っていて、草や流木などのゴミが水路に流れ込んできていました。これを取らないと、水がうまく流れなくなってしまいます。ゴミの中には人が捨てたと思われるプラスチック製のゴミもあり子供たちは、道路や水路にゴミを捨ててはいけないことを実感していました。

【第2部 令和6年8月30日】

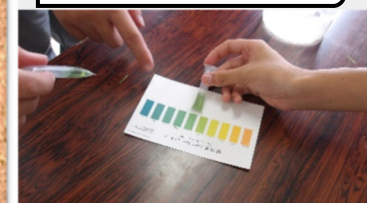
第2部の会場は、北方小学校です。

まず、土地改良区職員から、「長沼の歴史と現状」と「ふるさとの田んぼと水」について説明しました。長沼は北方小学校のすぐ近くにあるので、子供たちにもなじみのある場所です。普段何気なく見ている長沼にはいろいろな歴史があること、その周りに広がっている田んぼには水がどこから流れてくるのか、そして、田んぼはお米を作るだけではなく、いろいろな役割があることがわかりました。

最後は、長沼と迫川の水質調査です。パックテストを使って、CODとPhの数値を調べました。子供たちは、初めて使うパックテストに悪戦苦闘しながら長沼と迫川の水質を調べ、どちらの水も、中性に近くきれいな水であることがわかりました。

この日も生憎の雨で、残念ながら、当初予定していた長沼遊覧は中止となってしまいましたが、子供たちは真剣にそして楽しんで学習していました。

長沼も迫川もきれいだね！



水はどこから流れてくるの？

農地整備事業「古宿地区」が開始されました！

◇新規採択地区

令和6年5月14日付けで事業計画が確定され、農地整備事業「古宿地区」がスタートしました。初期型ほ場整備再生計画のモデル地区である「古宿地区」では、大型機械・ICTの導入による省力的、効率的な農作業と収益性が高く競争力のある農業に取り組むこととされています。

◇第1回実行委員会開催

迫川沿岸土地改良区にて、理事長より18名の換地・評価・実行委員へ委嘱状が交付され、令和6年8月9日(金)に事業開始の最初の委員会として、「古宿地区換地・評価・ほ場整備実行合同委員会」が開催されました。

委員会では、登米地域事務所農業農村整備部担当職員より、地区全体スケジュールや今年度業務の概要について委員へ説明し、委員からは早期の工事着手の要望や地元の協力体制等について意見をいただきました。

◇地区概要

地区内の主要作物は水稻で、環境保全米や輸出米にも取り組んでいるほか、飼料米やWCS、牧草が栽培され、近隣の畜産農家と提携し耕畜連携に取り組んでいる地域です。

これから本地区では、2ha区画のほ場（現況を長辺方向に拡大）を標準とした農地整備の実施により、農業機械の作業効率が向上していきます。管理作業においても、用排水路がパイプライン化され、水管理の軽減、草刈時間の短縮と共に、農道側からの落水作業やICTによる給水の自動化で更なる省力化が図られていきます。



▲計画平面図

出典：国土地理院発行
2.5万分1地形図



▲委員会の様子

古宿地区の事業概要

受益面積：91.1ha

予定期間：令和6年度～令和13年度

施工内容：整地工 A=91.1ha

道路工(B=4/5～2/3) L=8.3km

用水路工(管水路、開水路) L=7.3km

排水路工(管水路、開水路) L=7.4km

暗渠排水工 A=91.1ha



▲委嘱状の交付

宮城県東部地方振興事務所登米地域事務所農業農村整備部 広報広聴委員会（編集・管理調整班）



〒987-0511 宮城県登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5

Tel：0220-22-5169 Fax：0220-22-6015

E-mail：et-tmnbkt@pref.miyagi.lg.jp

URL：<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-ns/>

こちらからも
アクセス出来ます!!

